

壇 問ひ質す鏡よ鏡春の昼	壇 これ見よと足長蜂の長き足	壇 教科書よノートよ梅雨のランドセル
壇 殻割つて出づるが如く寒明くる	壇 花に来て蕊の細さの蜂の脚	壇 教科書もノートも梅雨のランドセル
壇 二三日寒の戻りに明け渡す	壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな	壇 炎天の酸素不足の喘ぎなり
壇 春めく日春めかぬ日を挟みつつ	壇 この季語は動かぬという子猫かな	壇 戻り梅雨ふり出しさうで風強き
壇 大空は酸素と窒素春の雪	壇 落椿朽ちゆくまでの日数かな	壇 西日いまビルの背中を舐るなる
壇 ジャン・ポール・サルトルの吹く石鹼玉	壇 芽吹く如くに密集のブラシの毛	壇 汗かかぬ齢さびしと句に記す
壇 石鹼玉性善説を広めよと	壇 紅白の梅あはあはと桜かな	壇 家出する娘のハンカチーフかな
壇 石鹼玉にも球体の志	壇 神兵の夏、ジャングルに飢えて死ぬ	壇 水曜の朝の娘のハンカチーフ
壇 春燈や一番星に先んじて	壇 あけまして梅雨より更に耐へ難し	壇 打水もなし天竺へ続く道
壇 めらめらと音おそろしき畦火かな	壇 風薫るつかまり立ちの時代かな	壇 打水を終へしホースをぐるぐると
壇 渦潮は万のの字を呑み込んで	壇 予報たがはず連日の大夕立	壇 老若を問はず日傘の黒と白
壇 何用か足長蜂の長き足	壇 荒梅雨や紙類重きランドセル	壇 老の白日傘若きの黒日傘

壇 日焼していよいよ腕白盛りなり	壇 もうひとつ鏡の中の秋の夜	壇 音はソウ訓はさはやか天高し
壇 王冠を外してよりのビールかな	壇 硬く深く締めたる螺子や秋の夜	壇 秋雨のこの一雨の尊とけれ
壇 窓からの蟬に騒然夏期講座	壇 錆びつきし螺子の頭や秋の夜	壇 秋の雲狙ひ澄ましてゐたりけり
壇 君付けもさん付けも夏期講座かな	壇 秋の夜を寝れば大きくなりけり	壇 広々と河原ありけり秋の晴
壇 水音の激しきプール開きかな	壇 秋の夜を寝れば大きく育つなり	壇 鳥は小さく島は大きく秋の晴
壇 蟻地獄隣近所のありにけり	壇 長き夜の推敲楽しからざるや	壇 PCも書籍も四角けふの月
壇 満を持して背ナを割りたる蟬の殻	壇 おのづから鼓動と呼吸夜の長し	壇 仰向けに海に浮べば月丸し
壇 鳴いてゐる蟬を拐つてゆきし鳥	壇 長き夜の推敲楽し次々に	壇 かはいいとかはいさうとの露の夜
壇 学校に新しき友花は葉に	壇 さめやらぬ余韻にひたる夜長かな	壇 若き日の我と歌手あり流れ星
壇 英国に紅白の薔薇戦争も	壇 たつぷりと余韻にひたる夜長かな	壇 真つ暗な回送電車天の川
壇 もの掛けて古釘折れぬ黴の家	壇 新鮮な九月ぞ昼も夜も励め	壇 満月といふ恥ぢらひの無き光
壇 秋の夜の意外なものが枕辺に	壇 祖父母父母而して我秋の風	壇 離れ恋ふなり七夕も電極も

壇 ふるさとへ召集解除豊の秋	壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下	壇 新海苔の十進法で束ねられ
壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる	壇 初雪の雨に消えゆく小半時	壇 外寝にはまだ辛きころ鬼は外
壇 蚯蚓鳴け恋の愁ひも聞いてやろ	壇 ちらちらと雪ふりそめし曇り空	壇 追ひ出され鬼の家族のホームレス
壇 遠雷も蛸も消え月淡し	壇 ゆくゆくは白装束の枯野かな	壇 追はれたる鬼の家族のホームレス
壇 かなかなのかなかなをよぶゆふべかな	壇 文明や火なし懐炉に火傷して	壇 見えてゐて遠き星座やクリスマス
壇 かなかなのカナカナと鳴くこともかな	壇 火事跡の黒き柱の長短か	壇 鴨の陣の足ばかり見ゆ鯉の上
壇 この家は今年も紺の朝顔を	壇 火事跡の何も支へぬ柱かな	壇 冬眠や日も夜もあらず真つ暗な
壇 この家の紺の朝顔今年また	壇 鏡台は燃えつつ火事を映しをる	壇 白鳥の腸重く着水す
壇 離れるだけ離れて遠し月と桃	壇 着ぶくれし人に囲まれ横たはる	壇 寂しさに赤く咲きたる冬薔薇
壇 割れ石榴あまりのことと言ふように	壇 湯婆に生れ火炙り足蹴かな	壇 雪折の見事な枝を生けてある
壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな	壇 燃やせるごみ専用袋冬帽子	壇 初写真この笑顔こそわが遺影
壇 打ちのべて黄金の香なる霜夜かな	壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり	壇 初詣疲れを許す神仏

壇 大空は酸素と窒素春の雪	壇 硬く深く締めたる螺子や秋の夜	壇 初雪の雨に消えゆく小半時
壇 石鱈玉性善説を広めよと	壇 錆びつきし螺子の頭や秋の夜	壇 ゆくゆくは白装束の枯野かな
壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな	壇 おのづから鼓動と呼吸夜の長し	壇 燃やせるごみ専用袋冬帽子
壇 神兵の夏、ジャングルに飢ゑて死ぬ	壇 長き夜の推敲楽しからざるや	壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり
壇 炎天の酸素不足の喘ぎなり	壇 長き夜の推敲楽し次々に	壇 冬眠や日も夜もあらず真つ暗な
壇 西日いまビルの背中を舐るなる	壇 秋の雲狙ひ澄ましてゐたりけり	壇 白鳥の腸重く着水す
壇 汗かかぬ齢さびしと句に記す	壇 PCも書籍も四角けふの月	壇 雪折の見事な枝を生けてある
壇 家出する娘のハンカチーフかな	壇 かはいいとかはいさうとの露の夜	壇 初詣疲れを許す神仏
壇 水曜の朝の娘のハンカチーフ	壇 真つ暗な回送電車天の川	
壇 打水もなし天竺へ続く道	壇 満月といふ恥ぢらひの無き光	
壇 打水を終へしホースをぐるぐると	壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる	
壇 老の白日傘若きの黒日傘	壇 蚯蚓鳴け恋の愁ひも聞いてやろ	
壇 老若を問はず日傘の黒と白	壇 この家は今年も紺の朝顔を	
壇 日焼していよいよ腕白盛りなり	壇 この家の紺の朝顔今年また	
壇 君付けもきん付けも夏期講座かな	壇 割れ石榴あまりのことと言ふように	
壇 水音の激しきプール開きかな	壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな	
壇 学校に新しき友花は葉に	壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下	

壇 石鹼玉性善説を広めよと	壇 怠らぬ鼓動と呼吸夜の長し	壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな
壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな	壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空	壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下
壇 神兵の夏、ジャングルに飢ゑて死ぬ	壇 秋晴の空を貫く狙撃かな	壇 初雪の雨に消さるる小半時
壇 炎天の酸素不足の喘ぎなり	壇 PCも書籍も四角けふの月	壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり
壇 西日いまビルの背中を舐るなる	壇 かはいいとかはいさうとの露の夜	壇 冬眠や日も夜もあらず真つ暗な
壇 汗かかぬ齢さびしと句に記す	壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ	壇 白鳥の腸重く着水す
壇 水曜の朝の娘のハンカチフ	壇 真つ暗な回送電車天の川	壇 雪折の見事な枝を生けてある
壇 打水を終へしホースをぐるぐると	壇 満月といふ恥ぢらひの無き光	壇 初詣の疲れを許す神仏
壇 腕白のその腕までも日焼して	壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる	
壇 夏期講座呼ぶ敬称の難しき	壇 蚯蚓鳴く恋の愁ひありぬべし	
壇 水音の激しきプール開きかな	壇 この家の紺の朝顔今年また	
壇 花は葉になりたるころや友を得て	壇 割れ石榴あまりのことと言ふやうに	

- 壇 貸借の目玉眠たく暖かく
壇 花は葉に学校友得たりけり
壇 初雪の雨に消さるる小半時
- 壇 うららかなや競馬なき日の競馬場
壇 長き夜の鼓動と呼吸怠らず
壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり
- 壇 石鱈玉性善説を広めよと
壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空
壇 冬眠や日も夜もあらず真つ暗な
- 壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな
壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ
壇 白鳥の腸重く着水す
- 壇 行く春と空に消えゆくエアメール
壇 真つ暗な回送電車天の川
壇 雪折の見事な枝を生けてある
- 壇 西方にまだ炎帝の背中見ゆ
壇 満月といふ恥ぢらひの無き光
壇 初詣の疲れと共に神仏
- 壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す
壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる
- 壇 水曜の朝の娘のハンカチフ
壇 蚯蚓鳴く恋の愁ひありぬべし
- 壇 打水を終へしホースをぐるぐると
壇 この家の紺の朝顔今年また
- 壇 腕白のその腕までも日焼して
壇 割れ石榴あまりのことと言ふやうに
- 壇 老若の老の清しき夏期講座
壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな
- 壇 水音の激しきプール開きかな
壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下

壇 春なれや目玉眠たく暖かく	壇 長き夜の鼓動と呼吸怠らず	壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり
壇 うららかや競馬なき日の競馬場	壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空	壇 冬眠や日も夜もあらず真つ暗な
壇 石鹼玉性善説を広めよと	壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ	壇 白鳥の腸重く着水す
壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな	壇 真つ暗な回送電車天の川	壇 雪折の見事な枝を生けてある
壇 行く春と空の彼方へエアメール	壇 満月といふ恥ぢらひの無き光	壇 初詣の疲れを共に神仏
壇 西方にまだ炎帝がこちら向き	壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる	
壇 汗かかぬ齢さびしと句に記す	壇 身をよぢる恋の話や蚯蚓鳴く	
壇 打水を終へしホースをぐるぐると	壇 この家の紺の朝顔今年また	
壇 腕白のその腕までも日焼かな	壇 割れ石榴あまりのことと言ふやうに	
壇 老若の老の清しき夏期講座	壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな	
壇 水音の激しきプール開きかな	壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下	
壇 花は葉に学校に友得たりけり	壇 初雪の雨に消さるるまでを見て	

- | | | |
|-------------------|--------------------|---------------------|
| 壇 黄砂降る座して黄金の大仏 | 壇 長き夜の鼓動と呼吸怠らず | 壇 時雨るるや灯点し頃のジャンクション |
| 壇 麗かや競馬なき日の競馬場 | 壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空 | 壇 初雪の雨に消さるるまでを見て |
| 壇 石鹼玉性善説を広めよと | 壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ | 壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり |
| 壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな | 壇 真つ暗な回送電車天の川 | 壇 白鳥の腸重く着水す |
| 壇 西方の炎帝がまだこちら向き | 壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる | 壇 大寒の黄金仕立の卵焼 |
| 壇 汗かかぬ齢さびしと句に記す | 壇 身をよぢる恋の話や蚯蚓鳴く | 壇 雪折の見事な枝を生けてある |
| 壇 打水を終へしホースをぐるぐると | 壇 この家の紺の朝顔今年また | |
| 壇 腕白のその腕までも日焼かな | 壇 割れ石榴あまりのことと言ふやうに | |
| 壇 老若の老の清しき夏期講座 | 壇 流星の豊かなる夜をエアメール | |
| 壇 水音の激しきプール開きかな | 壇 木枯の吹き来る方へ離陸せり | |
| 壇 花は葉に学校に友得たりけり | 壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな | |
| 壇 夕立に島々消ゆる船の旅 | 壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下 | |

2024・6・29【俳壇賞2024 C 全13句】 選30句

12行3段組14ポ 2024年9月29日 15:05 へ1 桐10

壇 麗かや競馬なき日の競馬場

壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空

壇 時雨るるや灯点し頃のジャンクション

壇 鬱憤に隣るウツフン四月馬鹿

壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ

壇 初雪の雨に消さるるまでを見て

壇 城下町門前町や桜餅

壇 真つ暗な回送電車天の川

壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり

壇 石鹼玉性善説を広めよと

壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる

壇 白鳥の腸重く着水す

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 身をよぢる恋の話や蚯蚓鳴く

壇 大寒や砂糖たつぷり卵焼

壇 西方の炎帝がまだこちら向き

壇 この家の紺の朝顔今年また

壇 雪折の見事な枝を生けてある

壇 打水を終へしホースをぐるぐると

壇 冷水は老人のもの敬老日

壇 老若の老の清しき夏期講座

壇 割れ石榴あまりのことと言ふやうに

壇 水音の激しきプール開きかな

壇 流星の豊かなる夜をエアメール

壇 花は葉に学校に友得たりけり

壇 木枯の吹き来る方へ離陸せり

壇 夕立に島々消ゆる船の旅

壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな

壇 秘かなる鼓動と呼吸秋の夜

壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下

2024・6・30【俳壇賞2024 C 全142句】 選30句

12行3段組14ポ 2024年9月30日 14:36 へ1 桐10

壇 麗かや競馬なき日の競馬場	壇 真つ暗な回送電車天の川	壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下
壇 石鹼玉性善説を広めよう	壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空	壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり
壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな	壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ	壇 白鳥の腸重く着水す
壇 城下町門前町や桜餅	壇 身をよぢる恋の話や蚯蚓鳴く	壇 鬱憤とうつつふん並ぶ年忘
壇 種蒔いて水撒いて草餅も食うて	壇 冷水は老人のもの敬老日	壇 大寒の大根おろし卵焼
壇 花は葉に学校に友得たりけり	壇 ずんぐりと藁塚丸く尖りをる	壇 雪折の見事な枝を生けてある
壇 西の空炎帝がまだこちら向き	壇 秘かなる鼓動と呼吸秋の夜	
壇 打水を終へしホースをぐるぐると	壇 流星の豊かなる夜をエアメール	
壇 老若の老の清しき夏期講座	壇 しぐるるや灯しごろのジャンクション	
壇 水音の激しきプール開きかな	壇 初雪の雨に消さるるまでを見て	
壇 夕立に島々消ゆる船の旅	壇 木枯の吹き来る方へ離陸せり	
壇 この家の紺の朝顔今年また	壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな	

2024・6・30【俳壇賞2024 C 全145句】 選30句

12行3段組14ポ 2024年9月30日 17:15 ^1 ^桐10

壇 城下町門前町や桜餅	壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空	壇 鬱憤とうつつふん並ぶ年忘
壇 種蒔いて水撒いて草餅も食うて	壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ	壇 多段式ロケットのごと年新た
壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな	壇 身をよぢる恋の話や蚯蚓鳴く	壇 ガスの火を電気に替へて初厨
壇 石鹼玉性善説を広めよう	壇 冷水は老人のもの敬老日	壇 乗らず見る山裾をぬふ初電車
壇 麗かや競馬なき日の競馬場	壇 ずんぐりと糞塚丸く尖りをる	壇 雪折の見事な枝を生けてある
壇 花は葉に学校に友得たりけり	壇 秘かなる鼓動と呼吸秋の夜	壇 大寒の大根おろし卵焼
壇 西の空炎帝がまだこちら向き	壇 流星の豊かなる夜をエアメール	
壇 打水を終へしホースをぐるぐると	壇 しぐるるや灯しごろのジャンクション	
壇 老若の老の清しき夏期講座	壇 初雪の雨に消さるるまでを見て	
壇 水音の激しきプール開きかな	壇 木枯の吹き来る方へ離陸せり	
壇 夕立に島々消ゆる船の旅	壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下	
壇 真つ暗な回送電車天の川	壇 白鳥の腸重く着水す	

2024・6・30【俳壇賞2024 C 全149句】 選30句

12行3段組14ポ 2024年9月30日 18:10 ^1 ^10

壇 城下町門前町や桜餅	壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ	壇 初夢にあふ誰かれの懐しき
壇 種蒔いて水撒いて草餅も食うて	壇 身をよぢる恋の話や蚯蚓鳴く	壇 ガスの火を電気に替へて初厨
壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな	壇 冷水は老人のもの敬老日	壇 乗らず見る山裾をぬふ初電車
壇 石鹼玉性善説を広めよう	壇 秘かなる鼓動と呼吸秋の夜	壇 寝積むという正月の隠し玉
壇 麗かや競馬なき日の競馬場	壇 流星の豊かなる夜をエアメール	壇 雪折の見事な枝を生けてある
壇 花は葉に学校に友得たりけり	壇 しぐるるや灯しごろのジャンクション	壇 大寒の大根おろし卵焼
壇 西の空炎帝がまだこちら向き	壇 初雪の雨に消さるるまでを見て	
壇 老若の老の清しき夏期講座	壇 木枯の吹き来る方へ離陸せり	
壇 水音の激しきプール開きかな	壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下	
壇 夕立に島々消ゆる船の旅	壇 白鳥の腸重く着水す	
壇 真つ暗な回送電車天の川	壇 鬱憤とうつつふん並ぶ年忘	
壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空	壇 多段式ロケットのごと年新た	